



PANORAMA
Channel Strip Controller

CS12

for

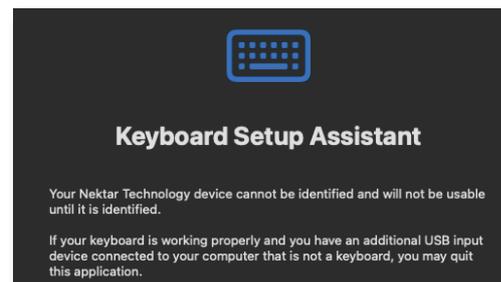
Logic Pro

日本語マニュアル

Section	Page
ファームウェアアップデート手順	3
インストールとセットアップ	4
はじめに	5
Panorama CS12 の概要	6
ディスプレイの概要	7
ミキサーチャンネルのコントロール	8
選択したパラメーターのコントロール	9
チャンネルとセンド - SmartControls、インストールメント・ユーザーランとセンド	10
プラグインコントロール - スロット選択とスロットバイパス	11
プラグインコントロール - 表示ボタン、ページナビゲーション、メニューページ	12
プラグインウィンドウの管理	13
プラグインマッピングのカスタマイズ - クイックランとランモード	14
プラグインマッピングのカスタマイズ - ランメニュー	15
プラグインマッピングのカスタマイズ - Nektarine	16
FINE - 高解像度コントロール	17
オートメーションモード	18
ファンクションコントロール - ズーム、テンポ、タイムライン、ループ	19
マーカー	20
フットスイッチオプション	21
ファンクションボタンチャート	22
その他のショートカットコマンド	23
トラブルシューティング	24

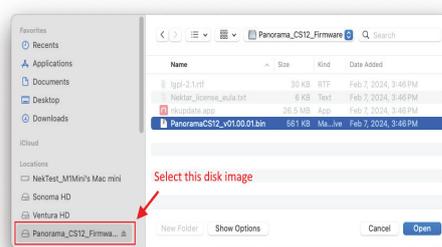
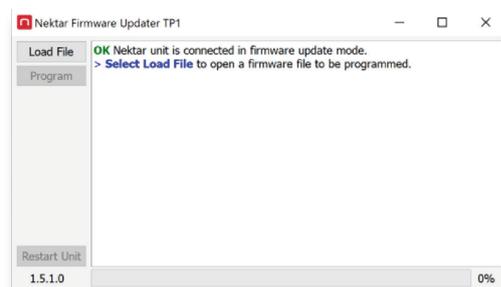
Panorama CS12 を接続した後、MacOS にキーボード設定アシスタントのメッセージが表示される場合は、ウィンドウを閉じてください。メッセージが再表示されなくなります。

ファームウェアは常に最新にアップデートすることをお勧めします。さあ始めましょう。



ファームウェアアップデート

1. Panorama CS12 が USB 経由でコンピュータに接続されていることを確認します。
2. CS12 の電源をオフにして、「Markers」+「Cycle/」を押したままユニットの電源をオンにします。ディスプレイに「FW update mode」と表示されます。
3. このガイドに付属のパッケージでファイル「Panorama_CS12_Firmware.dmg」を見つけ、ダブルクリックして開きます。
4. nkupdate アプリケーションを起動します。起動すると、画像のようになります。
5. nkupdate の画面上の指示に従って、ファームウェアをロードしてアップデートします。注：ファームウェアファイルは、「Load File」ボタンをクリックすると選択可能になり、PanoramaCS12_FW_vxxxxx.bin 以上の名前が付けられます。場所については画像を参照してください。
6. 「Load File」ボタンがグレー表示されている場合は、アップデータアプリを閉じて再度開きます。
7. アップデートのプロセスが完了したら、Panorama CS12 の電源をオフにして再度オンにします。



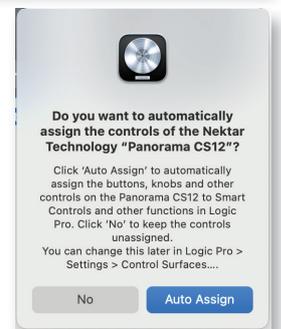
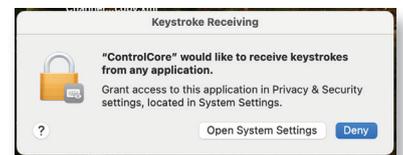
これで、Panorama CS12 の準備が整いました。ソフトウェアのインストールに進みましょう。

ControlCore とは？

ControlCore は、Panorama CS12 のプラグインマッピングファイルやその他の重要なデータを管理するシンプルなアプリです。ControlCore には、Apple API を使用してハードウェアが DAW と直接通信できるようにする Logic Pro コントロールサーフェスファイルも含まれています。ControlCore システムの詳細については、クイックスタートガイドの「Panorama CS12 システムの概要」を参照してください。

セットアップ

1. Logic Pro 10.7 以降がコンピュータにインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、少なくとも 1 回インストールして実行し、Logic Pro を終了してください。
2. ダウンロードしたパッケージに含まれている ControlCore_Installer_OSX.dmg インストーラを実行します。
3. Nektar Mapfiles、Nektar ControlCore、Nektar Apple Control がすべてインストール対象としてチェックされていることを確認します。
4. 画面の指示に従ってインストールを完了します。
5. CS12 を USB 経由でコンピュータに接続し、電源がオンになっていることを確認します。
6. MacOS のメッセージ「ControlCore は任意のアプリケーションからキーストロークを受け取ります」が表示されたら、「システム設定を開く」をクリックします。
7. 「入力モニタリング」ウィンドウで、ControlCore を有効にします。
8. コンピュータを再起動します。
9. Logic Pro を起動し、既存のプロジェクトを読み込むか、新しいプロジェクトを作成します。
10. Logic で、「Nektar “Panorama CS12” のコントロールを自動的に割り当てますか？」というダイアログボックスが表示されます。
11. 「自動割り当て」をクリックします。
12. コントロールサーフェスウィンドウが表示され、CS12 アイコンが表示されます。閉じます。
13. 「Logic Pro」メニューで、「環境設定」>「詳細ツール」に移動します。「完全な機能を有効にする」にチェックが入っていることを確認します。
14. 最後に、Logic Pro メニューに移動して、「コントロールサーフェス」>「デフォルトの再構築」を選択します。



plist ディレクトリの配置

Logic Pro 独自のプラグインは、デフォルトではすべてのパラメータをコントロール用に公開していません。Nektar のダウンロードパッケージには、「Logic_plugin_plists」というフォルダが含まれており、このフォルダには Logic Pro のプラグインのすべてのパラメータが含まれています。このフォルダの内容をユーザーディレクトリに配置し、既存の plist ファイルを上書きすることで、すべてのパラメータをコントロール用に使用できるようになります。MacOS では、次のディレクトリに移動します `:/Users/<user>/Music/Audio Music Apps/Plug-In Settings`

- Plug-In Settings フォルダをコピーしてコンテンツをバックアップしておくことをお勧めします（任意）
- ダウンロードした Nektar パッケージから、Logic_plugin_plists フォルダを開きます。
- Logic_plugin_plists フォルダのコンテンツ（フォルダ自体ではありません）を Plug-In Settings フォルダに移動し、既存のコンテンツを置き換えます。そして Logic Pro を再起動します。

これでセットアップは完了し、Panorama CS12 は Logic Pro と通信できるようになります。

Panorama CS12 はこれで準備完了ですが、システムチェックを完了しましょう。

- Panorama CS12 の背面にある電源ボタンで、ユニットの電源をオフにしてから再びオンにします。
- ディスプレイの右上隅に2つのアイコンが表示されます。1つはControlCore 接続用、もう1つは電源用です。両方が緑色の場合、Panorama CS12 は30秒以内にLogic Pro に接続します。
- 1つまたは両方が灰色で、Logic Pro への接続が確立されていない場合は、トラブルシューティングページに進みましょう。

Logic Pro で既存のプロジェクトを読み込むか、新しいプロジェクトを作成します。次に、挿入プラグインをホストするトラックを選択します。

「クイックスタートガイド」には、次のページにも記載されているハードウェアの概要が含まれています。操作方法の大まかな概要が記されています。よく読んで Panorama CS12 の扱いに慣れておくようにしましょう。

ファーストステップ

- Panorama CS12 は、プラグインを含む、現在選択されている Logic Pro チャンネルストリップのあらゆる機能をコントロールできます。トラックまたはチャンネルは Panorama CS12 から直接選択できますが、まずはマウスを使用したおなじみのチャンネル選択から始めましょう。
- Logic Pro でトラックまたはチャンネルをクリックして選択します。Panorama CS12 のディスプレイが更新され、チャンネルの最初の8つのプラグインスロットにロードされているプラグインの詳細を示すプラグインリストが表示されます。
- プラグインをコントロールするには、Panorama CS12 でプラグインスロットを選択する必要があります。パネル上の1～8の番号が付けられた点灯しているプラグインスロットボタンの1つを押します（印刷された機能概要では(11)）。
- ディスプレイに、現在割り当てられているプラグインパラメータとその値が表示されます。ロータリーコントロール(12)はディスプレイに合わせて点灯します。コントロールを動かしてプラグインパラメータを調整します。
- Panorama CS12 で点灯している別のプラグインスロットボタンを押すと、そのスロットにホストされているプラグインをコントロールできます。プラグインリストが一時的に表示されます。
- 現在のチャンネルにホストされているプラグインをもっと表示する必要がある場合は、上部の「9-16」というラベルの付いたボタンを使用してプラグインリストを開きます。チャンネルに8つ以上のプラグインがある場合、このボタンはプラグインスロット1～8と9～16を切り替えることもできます。
- Logic Pro で別のチャンネルを選択し、そのチャンネルのプラグインをコントロールするプロセスを繰り返します。

Logic ProでPanorama CS12を使い始めるには、この入門手順だけで十分でしょう。ぜひお試しください。この製品は、既存のワークフローを補完し、触覚的なコントロールが創造性と生産性に役立つ重要な領域を強化することを目的としています。必要に応じてこのマニュアルを参照して、パワーユーザー向けの機能をすべて学んでみてください。いずれにしても、Panorama CS12があなたのセットアップに永続的に定着することを願っています。



1

100mm モーターフェーダー。「Select」でミキサーチャンネルとその他のパラメータをコントロールします。

2

ミキサーチャンネルコントロールには、6セグメントVUメーター、パンコントロール用の1x360ポット、チャンネルアーム、ソロ、ミュート用のボタンが含まれます。

3

Selectボタン。青色点灯時はプラグインまたはDAWでパラメータをクリックし、フェーダーまたは360ポット(パン)コントロールを使用してコントロールできます。「Shift」キーを押しながら「Select」キーを押すと、モーターフェーダー(1)でコントロールするマスター出力チャンネルが選択されます。

4

TFT ディスプレイには、プラグインコントロールの割り当てと値がディスプレイのメイン領域に表示され、一番上の行には現在コントロールされているパラメータ(モーターフェーダーの割り当てを含む)が表示されます。

5

4つのディスプレイボタンは、すぐ上のディスプレイラベルに従ってプラグインパラメータをコントロールします。

6

ZOOM エンコーダーは水平方向のズームをコントロールします。「Shift」キーを押しながらズームを動かすと、垂直方向のズームをコントロールします。

7

TEMPO はデフォルトで DAW のテンポをコントロールします。さらに、再生ヘッド(ジョグ)、スクラブ、ナッジ、サイクル、垂直ズーム、クリップゲインなど、選択可能な6つのオプションがあります。「Shift」キーを押しながら「TEMPO」を動かして表示されているリストから選択します。

8

DATA/MENU を動かすとプラグインページメニューリストが開きます。大半のプラグインにはメインページが1つしかありませんが、複数のページがある場合もあります。「Shift」キーを押しながら DATA/MENU エンコーダーを押すと、プラグインランメニューがアクティブになります。

9

アイコンで示される17個のトランスポートボタンとナビゲーションボタンです。ボタンの下部に表示されている機能へアクセスするには、「Shift」キーを押しながら必要な機能を押します。完全な手順については22ページを参照してください。

10

MARKERS ボタン。アクティブ(点灯)の場合、上記のM1-M10というラベルの付いたボタンはマーカー選択に使用されます。

11

チャンネルストリップ選択ボタン。ポット(12)、表示ボタン(5)、RGB ボタン(13)の割り当てを決定します。下から、Channel は DAW のチャンネル機能割り当て(該当する場合)、Sends はセンドコントロール、8つのボタンはラベルに従ってプラグインスロット1-8を選択します。最後のボタンは、点灯時プラグインスロット1-8と9-16を切り替えます。このボタンでプラグインの概要ページを開けます。

12

12個のロータリーコントロールは、360度のエンドレスポットです。各ポットは、ディスプレイのパラメーター値インジケータと一致する色のRGB LEDで点灯します。「Shift」キーを押したまま、ポットを移動して選択し、DATA/MENU コントロール(8)を動かして色をカスタマイズできます。

13

プラグインコントロール用の4つのRGBボタンです。「Shift」キーを押したまま、ボタンを押して選択し、DATA/MENU コントロール(8)を動かすと色をカスタマイズできます。4つのディスプレイボタン(5)と組み合わせることで、Panorama CS12はコントロールページごとに最大8つのスイッチパラメータをコントロールできます。

14

5V DC 用電源ソケット、センタープラスのバレル型コネクタです。

15

電源オン/オフスイッチです。

16

USB-C コネクタです。付属のUSBケーブルをCS12に接続し、もう一方の端をコンピュータのUSB A ソケットに接続します。両端にUSB-C コネクタが付いたケーブル(オプション、付属していません)を使用することもできます。USB 2 および 3、USB C と互換性があります。

17

最大2つのフットスイッチを接続するための1/4インチTRSジャックソケットです。Yスプリッターケーブル構成のTRSから2xTS1/4インチジャックを使用します(付属していません)。

18

ケンジントンロックポイント(ケンジントンロックは付属していません)。

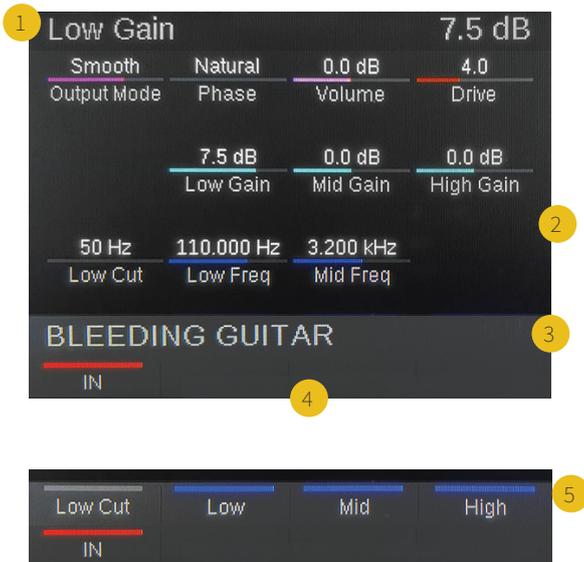


ディスプレイに表示される項目

Panorama CS12 の操作に必要な Logic Pro フィードバックは、3つのディスプレイデザインでカバーされます。

1. コントロールディスプレイ

メインコントロールディスプレイには、プラグインパラメータとチャンネルメニューに割り当てられたコントロールの割り当てが表示されます。



1. 現在のパラメータラインは上部にあります。右側には最後にコントロールされたパラメータとその値が表示されません。
2. ディ스플레이の本体領域には、12個のロータリー割り当てが表示されます。パラメータ名は値バーの下に、値は対応するロータリーコントロールと同じ色の値のバーの上に表示されます。
3. 現在選択されているトラックの名前です。
4. ディ스플레이の下にある各ディスプレイボタンに1つずつ、最大4つのラベルが表示されます。例では、オン/オフステータスバーで識別できるボタンパラメータが最初のディスプレイボタンに割り当てられています。
5. エンコーダボタンである「DATA/MENU」を切り替えると、4つのLEDボタン(13)への割り当てとトラック名が交互に表示されます。

2. プラグインスロットリスト

リストには、現在のチャンネルのプラグインスロットにロードされているプラグインが表示されます。リスト内のプラグインをコントロールするには、対応するプラグインスロットボタンを押します。

チャンネルに9個以上のプラグインがある場合は、「9-16」というラベルの付いた上部のプラグインスロットボタンが点灯します。このボタンを押すと、プラグインバンク 1-8 と 9-16 が切り替わります。

現在のパラメータラインは上部に表示され、モーターフェーダーやその他のソースからのパラメーターフィードバックが表示されます。

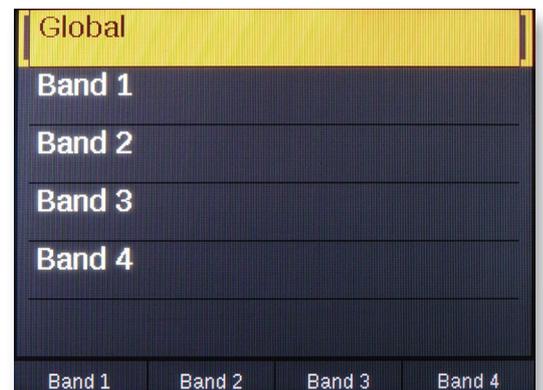


3. メニューオプション

「DATA/MENU」エンコーダーを使用して選択オプションを提供する場合、このリストが表示されます。

たとえば、多くのパラメーターを持つプラグインをコントロールする場合、「DATA/MENU」エンコーダーを動かすと、追加のページがリストされます。

選択するには、選択範囲に留まるか、「DATA/MENU エンコーダー(ボタン兼用)」を押します。



ミキサーチャンネルコントロールは、メインミキサーパラメータに割り当てられます。

1. フェーダー

100mm ロングスローモーターフェーダーは、選択された Logic Pro ミキサーチャンネルのボリュームをコントロールするためにデフォルトで割り当てられています。コントロール解像度は 10 ビットで、フェーダーでは詳細なコントロールが可能です。チャンネルを選択すると、フェーダーはそのチャンネルのボリューム位置にジャンプします。

ファインコントロール: フェーダーは 14 ビットの解像度でパラメータをコントロールできます。フェーダーを動かすときは、Fine(虫眼鏡) ボタンを押し続けます。パラメータに影響を与えずにフェーダーの位置を変更するには、「Fine」+「Mute」を押しながらフェーダーを動かします。

詳細については、17 ページの「FINE - 高解像度コントロール」セクションを参照してください。

マスターボリューム: 「Shift」+「Select」を押して、Logic Pro のマスターボリュームをコントロールします。これを繰り返して、フェーダーモード(選択したチャンネル/マスター)を切り替えます。

ボリュームを 0db に設定: 「Shift」を押したままフェーダーをタッチします。

フェーダーモーターを一時的に無効: 「Select」を押したままフェーダーをタッチします。再度有効にするには、フェーダーをもう一度タッチしてください。



2. Meter

6セグメントのステレオメーターは、-60db からクリッピングまでのチャンネルレベルを表示します。モノラルチャンネルを選択した場合は、左の列のみが使用されます。-60db から、最初の 4 つの緑色のセグメントの明るさが徐々に増加し、-9db まで続きます。5 番目の黄色と 6 番目の赤色のセグメントの明るさは、-9db から 0db まで徐々に増加します。

3. Pan

ロータリーポットはパンをコントロールします。ポットの RGB LED の色は、Logic Pro のチャンネルストリップの色によって設定されます。Logic Pro で変更するには、ミキサーを開いて、色ラベルを右クリックします。次に、パレットから新しい色を選択します。

Logic Pro のチャンネルの色は、チャンネルボタンとセンドボタンも点灯します。

4. Arm ボタン

現在のトラックが録音可能になっている場合、「Arm」が赤になります。選択したチャンネル以外のチャンネルで録音が有効になっている場合、ボタンは白になり、「Arm」を押すと再び録音が有効になります。「Shift」+「Arm」を押すと、他のすべてのトラックの録音が無効になります。

5. Solo ボタン

現在のチャンネルのソロを有効(緑)/無効(白)にします。「Shift」+「Solo」を押すと、ソロが有効になっているすべてのチャンネルのオン/オフが切り替わります。

6. Mute ボタン

チャンネルミュートを有効(オレンジ)/無効(白)にします。「Shift」+「Mute」を押すと、ミュートされているすべてのチャンネルのミュートが無効になります。

7. Select ボタン

次のページを参照してください。

選択したパラメータをコントロールすることは重要ですが、とても使いやすい機能です。選択されているチャンネルのパラメータは、チャンネルボリューム、パン、センドレベル、MIDIエフェクト、インストゥルメント、およびインサートプラグインパラメータを含め、フェーダーまたはパンコントロールのいずれかでコントロールできます。

- まず、「Select」ボタンを有効にします。有効になると青く点灯します。
- 次に、Logic ProsのUIで、センドレベルやプラグインパラメータなどのパラメータをクリックします。
- フェーダーまたはパンポットを動かして、選択したパラメータをコントロールします。
- 別のパラメータをクリックしてコントロールします。とても簡単です。

Logic Pro オートメーションの表示とフォーカス

「Select」が有効になっている場合、Logic Proのメインウィンドウがフォーカスされ、オートメーションの表示ボタンが有効になります。選択されたパラメータがオートメーションフィールドに表示されます。

ここではシンセDiva's OSC2/Tuneパラメータが選択されています。



注意: オートメーションの表示を有効にすると、Logic Proのメインウィンドウがフォーカスされている必要があるため、エディターや別のミキサーウィンドウなど、フォーカスされていたフローティングウィンドウはフォーカスされなくなります。単一モニターシステムでは、ウィンドウがメインウィンドウの後ろに隠れる場合があります。この場合、コントロールするパラメータを選択した後、Panorama CS12が選択したパラメータをコントロールしたまま、他のウィンドウにフォーカスを戻すことができます。

Auxトラックの作成: Logic ProでAuxチャンネルを作成しても、デフォルトでは関連付けられたトラックは作成されません。「SELECT」が有効になっている場合はオートメーションをルーティングするためにトラックが必要なので、Auxトラックを作成するには、Logic ProのミキサーでAuxチャンネルを選択します。Ctrlキーを押しながらクリックし、ポップアップメニューから「トラックを作成」を選択します。

フェーダーとパンポット

フェーダーとパンコントロールはどちらも同じパラメータを調整します。

フェーダーの10ビット解像度により、パラメータを詳細にコントロールできるほか、フェーダーで選択したパラメータの値の位置に確実に移動するという利点もあります。

ロータリーパンコントロールは、選択したパラメータを7ビットで調整するため、1回の回転で値の範囲をカバーします。より細かい調整が必要な場合は、「Fine(虫眼鏡ボタン)」を有効にして14ビットでコントロールできます。

コントロールの選択は、好みと求めている結果によって異なります。

「Select」を有効にすると、フェーダーは、ノートの組み合わせを試しながらループできるLFOスタイルのオートメーションを記述するのに特に便利です。選択機能は、楽器の標準のモジュレーションオプションでは実現が困難または不可能な結果をすばやく得ることができるため、クリエイティブツールボックスの一部になります。

ヒント: 「Select」がオンの状態で12個のロータリーポットを使用してパラメータをコントロールすると、パラメータが選択されます。つまり、ロータリーコントロールを動かすと、モーターフェーダーが動きます。モーターを無効にするには、Selectを押しながらフェーダーをタッチしてください。フェーダーモーターを再びアクティブにするには、フェーダーをタッチするか、「Select」を無効にします。

チャンネルおよびセンドボタン(1および2)は、Logicチャンネルストリップの追加機能をカバーします。Logic Proチャンネルストリップの色は、チャンネルおよびセンドボタンを含むすべてのコントロールを照らします。

1. チャンネル

チャンネルモードがアクティブな場合、ディスプレイには3つのディスプレイボタンを使用して操作できる3つのメニューオプションが表示されます。

Smart: チャンネルのスマートコントロールパラメータをロータリーコントロールに割り当てます。Logic Proのスマートコントロールパネルは、メニューがアクティブなときは自動的に開き、そうでないときは閉じます。

User 1 & 2: 2つのページは、プラグインインストゥルメントの基本的なコントロールを目的としています。Logic Pro独自のランモードを使用すると、12個のロータリーコントロールと4つのLEDボタンのいずれかにパラメータを割り当てることができます。

パラメータをランさせるには:

- Panorama CS12で「Shift」キーを押したままにします。
- インストゥルメントのUIでパラメータを移動します。
- パラメータを割り当ててるコントロールを移動します。
- 「Shift」キーを離します

割り当てはインストゥルメントごとに保存され、そのインストゥルメントをホストするトラックが他のプロジェクトで選択されると自動的に読み込まれます。ユーザーページの割り当ては、Logicの.CS設定ファイルの一部として保存されます

2. Sends

センドメニューでは、12個のロータリーコントロールを使用して最大12個のセンドをコントロールします。センドは、Logic ProまたはPanorama CS12から直接設定できます。

- 現在のチャンネルにセンドが設定されていない場合は、まず「Dest.」(送信先)というラベルの付いた3番目のディスプレイメニューを選択します。
- 「Send 1 Destination」というラベルの付いたロータリーを動かして出力またはバスを選択し、「Confirm」を押して変更を確定します。

これで、「Level」メニューを使用してセンドレベルを調整し、「Pre/Post」メニューを使用してルーティングオプション(プリフェーダー、ポストフェーダー、またはポストパン)を選択できます。

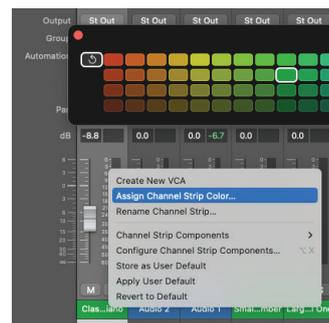
すべてのセンドをミュートするには、「Shift」+「Sends」を押します。1つのセンドをミュートするには、「Shift」キーを押したまま「Send」ポットを反時計回りに回します。ミュートを解除するには、「Shift」キーを押したままポットを時計回りに回します。

ヒント: Sendレベルを細かくコントロールする必要がある場合は、「虫眼鏡 (Fine)」を有効にします。

Logic Pro でチャンネルストリップの色を変更する

すべてのRGBで点灯するチャンネルコントロールの色は、Logic Proで設定できます

- Logic Proでミキサーを開きます
- マウスで、カラーチャンネルストリップ名フィールドをControlキーを押しながらクリックします。
- メニューから「チャンネルストリップの色を割り当てる」を選択します。
- パレットから新しい色を選択します。



Panorama CS12は、幅広いオーディオFXプラグインコントロールが可能です。あらかじめマップされたプラグインを使用すると、すぐに最高の体験が得られます。Logic Pro独自のオーディオFXはすべて事前にマップされているため、まずはチャンネルストリップにいくつかロードしてください。

プラグインがロードされると、ディスプレイが更新され、割り当てが表示されます。上部のボタン「9-16」を押すと、プラグインリストが表示されます。

プラグインスロットの選択

8つのボタン1-8/9-16を使用して、チャンネルのオーディオFXプラグインスロットを選択します。

- スロットにプラグインが存在する場合、ボタンが点灯します。
- スロットの色は、視覚的な手がかりとしてプラグインの種類を示します。
- 「9-16」を押すと、プラグインリストが表示されます。
- 現在のチャンネルに8つ以上のプラグインがロードされている場合、「9-16」が点灯します。押すとスロット1-8と9-15が切り替わります(Logic Proの挿入スロットは16ではなく15です)。
- 点灯しているスロットボタンのいずれかを押すと、ホストされているプラグインをコントロールできます。選択されたスロットのボタンは白くなります。



ディスプレイには、12個のロータリーコントロールのそれぞれに割り当てられたパラメータが表示されます。バリューインジケータは、ロータリーコントロールと一致するように色分けされ、その下にはパラメータ名、上には値が表示されます。

ディスプレイの上部にある現在のパラメータラインには、最後にコントロールされたパラメータが表示されます。この場合は、コンプレッサーのスレッシュホールドパラメータです。

Threshold			-17.0 dB
Platinum	0.0 dB	0.0 dB	0.0 dB
Circuit Type	Input Gain	Output Gain	Limiter Threshold
-17.0 dB	2.1:1	0.0 dB	Off
Threshold	Ratio	Make Up	Distortion
0.7	15.0 ms	51.0 ms	100.0 %
Knee	Attack	Release	Mix
AUDIO 8			
Auto		Limiter Side Chain	

プラグインスロットをバイパスする

プラグインスロットはPanorama CS12から直接バイパスできます。バイパスすると、プラグインスロットのLEDが暗くなり、プラグインスロット表示リストにスロットの背景が灰色で表示されます。Logic Proの表示と同様です。

- 1つのプラグインスロットをバイパスするには、「Shift」+「プラグインスロットボタン1-8」を押します。
- 現在のチャンネルのすべてのプラグインスロットをバイパスするには、「Shift」+「ボタン9-16」を押します。
- バイパスを再度無効にするには、繰り返します。

ディスプレイボタンとページナビゲーション

ディスプレイボタンは、ページナビゲーションまたはパラメータコントロールに使用されます。ボタンにオン/オフのインジケータがある場合は、パラメーターボタンになります。ない場合は、ページナビゲーションに使用され、プラグイン設定に影響を与えることなく、ボタンを自由に押すことができます。この例では、ボタン1と3はパラメータをコントロールし、ボタン4「サイドチェーン」はコントロールページを切り替えます。



12個のポットの下の4つのLEDボタンもパラメータコントロールに使用できます。ボタンが点灯している場合は、パラメータをコントロールしています。



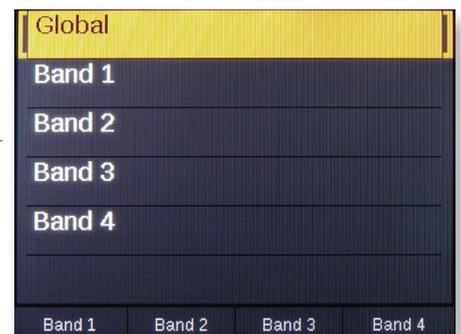
割り当てられたパラメータ名を表示するには、「DATA/MENU」エンコーダーを押します。

Menu ページ

オーディオエフェクトは、すでに説明したように、表示ボタンからアクセスできる追加のサブページを備えた1つのメインページを使用してコントロールされることがよくあります。50を超えるパラメータを持つプラグインでは、通常、より多くのページが必要になり、メニューページを使用してそれらをナビゲートできます。

Logic ProのダイナミクスプラグインMultipressorは、ページナビゲーションの仕組みを示す良い例です。

- コントロールにMultipressorを選択した状態で、「DATA/MENU」エンコーダーを動かして右側にページリストを表示します。5ページあります。
- 選択するブラケットを置いてページを選択します。ページが選択され、コントロールディスプレイにパラメータ割り当てが表示され、コントロールできるようになります。
- 「DATA/MENU」エンコーダーを押してページを選択することもできます。ページが1つしかない場合は、その方法を使用するか、別のプラグインスロットボタンを押してください。

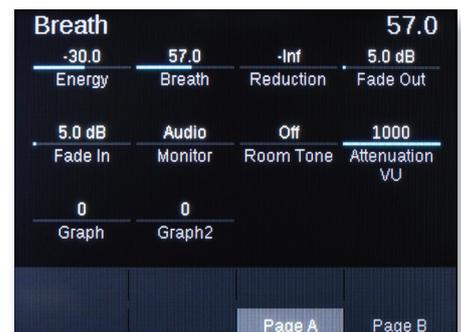


Multipressorのマッピングは、メニューを使用してページを選択する必要がないように設計されています。Band1~4ページでは、各バンドのナビゲーションにディスプレイボタンを使用します。グローバルページはトップページであるため、プラグインスロットボタンを押すだけでいつでも選択できます。

マップされていないプラグイン

事前にマップされていないプラグインは、プラグインによってパラメータが提示される順序でコントロールに割り当てられます。Panorama CS12パラメーターランオプションを使用して簡単にカスタマイズできるページAとページBの2つのページがあります。

14ページの「プラグインマッピングのカスタマイズ」を参照してください。



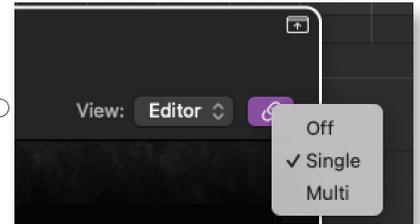
Logic Pro でトラック / チャンネルを選択すると、プラグインウィンドウが表示されますが、プラグインがすでに開いているかどうか、および Logic Pro プラグインのリンクボタンの設定によって異なります。

重要: Panorama CS12やMCUデバイスなどのコントロールサーフェスからプラグインウィンドウを開くと、Logic Proは自動的にリンクボタンをオンにし、デフォルトでSingleが選択されます。詳しくはLogic Proのマニュアルをお読みください。

ここでは、Logic Proプラグインウィンドウの動作を観察した結果、Panorama CS12ワークフローにどのような影響があるかを説明します。以下はLogic Pro 11の動作に基づくもので、それ以前のバージョンでは対応が異なる場合があります。

Logic Proリンクウィンドウオプション

リンクボタンは、プラグインウィンドウの右上隅にあります。ボタンを右クリックして、次のいずれかのオプションを選択します。



- **オフ(黒):**リンクがオフになっているため、プラグインウィンドウは閉じません。
- **シングル(パープル):**リンクがオンになっているため、プラグインは1つのウィンドウに読み込まれ、最後に開いたプラグインが前のプラグインを置き換えられます。
- **マルチ(オレンジ):**リンクはオンになっていますが、現在のチャンネルのプラグインスロットごとに最大1つのプラグインウィンドウを開くことができます。別のチャンネルを選択すると、ホストされているプラグインが対応するウィンドウで開き、前のチャンネルのプラグインに置き換えられます。

リンクがオフに設定されている場合、マウスを使用してプラグインウィンドウを開いたり、CS12から[🔗]または[🔗]+[プラグインスロットボタン](下記参照)を押してプラグインウィンドウを開いたりしても、リンクはオフのままです。

コントロールのためにプラグインスロットが選択されると、プラグインウィンドウが開き、リンクボタンがオンになります。デフォルトのSingle設定は、単一のウィンドウで表示が乱雑になるのを避ける整頓されたオプションで、好ましくないプラグインウィンドウは表示されたままになります。同じプラグインスロットを2回表示することはできないので、開いているリンクされていないプラグインウィンドウがCS12でコントロールのために選択された場合、リンクされていないウィンドウは閉じられ、リンクされたプラグインウィンドウで開かれることに注意してください。

Panorama CS12ウィンドウのショートカット

いくつかのボタンコマンドを使用すると、プラグインウィンドウの管理が簡単になります。

プラグインウィンドウショートカット	説明
[🔗]	選択したプラグインスロットのプラグインウィンドウを開閉します。
[SHIFT]+[🔗]	開いているプラグインをすべて非表示にします。もう一度押すとすべて表示されます。
[SHIFT]+[↓↑↑]	固定されたウィンドウを含む、開いているプラグインをすべて閉じます。
[🔗]+[PLUGIN SLOT BUTTON]	プラグインスロットにホストされているプラグインを開く/閉じます。
[↓↑↑]	Logic Proのメインウィンドウのミキサーを開く/閉じます。フローティングミキサーウィンドウには影響しません。

プラグインマッピングは、割り当ての変更、または完全なナビゲーション構造とカスタマイズされたパラメータ名を使用してカスタマイズできます。

プラグインマッピングをカスタマイズするために使用できるオプションは3つあります:

- クイックラーン
- ラーンメニュー
- Nektarineグラフィカルマップエディター

3つのオプションを自由に組み合わせて使用できます。たとえば、ラーンオプションの1つを使用してコントロールにパラメータを割り当ててから、Nektarineを使用してナビゲーション構造を作成します。マップファイルを保存すると、NektarineとLogic Proの両方で直接使用できます。

クイックラーン

3つのオプションのうち、クイックラーンが最も簡単です。

1. マッピングするプラグインがCS12で選択されており、Logic ProでそのUIが表示されていることを確認します。
2. 「Shift」キーを押したまま、マウスでプラグインのUIのパラメータを移動します。
3. コントロールを移動または押して、移動したパラメータを割り当てます。コントロールのLEDと表示要素がそれに応じて更新され、「Shift」キーを放すことができます。
4. 手順2と3を繰り返して、コントロールのパラメータをさらにラーンします。

コントロールの色も次の方法で調整できます。

- 「Shift」を押したままコントロールを動かす/押して選択します。
- 「DATA/MENU」エンコーダーを動かして色を選択します。
- 必要に応じてこの手順を繰り返し、完了したら「Shift」を放します。

プラグインスロットボタンを点灯するプラグインの色を変更することもできます。プラグインをホストしているLogic Proのインサートスロットに対応する「Plugin slot」ボタンを押しながら、「DATA/MENU」エンコーダーを動かします。

重要:ラーンしたパラメータは、ControlCoreが実行中である限り記憶されます。保存されていない変更を元に戻すには、Applications/Nektar/ControlCoreに移動して停止をクリックし、ControlCoreを再度起動します。変更を永続的に保存するには、Panorama CS12のラーンモードでマップファイルを保存します。

ラーンモード

より多くのパラメータをラーンする予定の場合は、ラーンモードを使用する方が簡単かもしれません。ラーンモードを有効にするには、「SHIFT」+「DATA/MENU」(エンコーダースイッチ)を押します。

ラーンモードが有効な場合、パラメータをラーンするプロセスはクイックラーンと同じですが、「Shiftボタン」を押し続ける必要はありません。代わりに、次の操作を行います。

- プラグインUIでパラメータを移動します。
- コントロールを動かす/押してパラメータを割り当てます。

その他のオプションについては、「DATA/MENU」エンコーダーを動かすと、以下のメニューオプションが表示されます。各オプションについて、「DATA/MENU」エンコーダーを動かしてランメニューを表示する必要があります。

Clear One: コントロールから割り当てを1つクリアします。コントロールを新しいパラメータにランさせることができるため、コントロールにパラメータを割り当てたくない場合にのみこのオプションが必要です。

- 「DATA/MENU」エンコーダーを使用してClear Oneを選択し、「DATA/MENU」エンコーダーを押して確定します。
- 次にコントロールを動かす/押して割り当てをクリアします。



Clear All: ページナビゲーションを含む、ページ上のすべての割り当てをクリアします。このオプションは、単一のページマップが必要な場合にのみ使用してください。

Setting the plugin color (プラグインの色の設定): プラグインの色は、コントロールが個別に設定されている場合を除き、プラグインスロットボタンとすべてのコントロールを照らします。

プラグインの色を設定するには、「プラグインスロットボタン」を押したまま「DATA/MENU」エンコーダーを動かします。

Set Control Color: このオプションは、プラグインの色を上書きして、各コントロールの色を設定します。

- Set Color というラベルの付いたディスプレイボタンを押して有効にします。
- コントロールを動かすか押すと、コントロールの色が変更されます。
- Set Color を無効にするには、「DATA/MENU」エンコーダーを動かしてボタンを無効にします。

プラグインマップの保存: 4番目のディスプレイボタン(「Save」と表示されます)を押します。

プラグインマップは、ユーザーディレクトリ/Documents/Nektar/Nektarine/Mapping Files に保存されます。

終了: 終了するには、3番目のディスプレイボタン(「Exit」と表示されます)を押すか、「Shift」+「DATA/MENU」を押してランメニューを無効にします。

Nektarineソフトウェア (Nektarアカウントに別途ダウンロードとして含まれています) を使用すると、次のことができます。

- ページの作成、削除、および名前の指定。
- 表示ボタンから選択できるサブページの作成。
- パラメータの名前の変更。
- ドラッグアンドドロップでのパラメータのマッピング。
- マップページからパラメータをクリア/削除。
- 前のページで説明したように、Panorama CS12でランモードを使用したパラメータのマッピング。

これらすべてを実行するには、マップするプラグインをNektarineでホストする必要がありますが、マップファイルを保存すれば、すぐにLogic Proで使用できるようになります。Logic ProでNektarineをAUプラグインとして実行することも、スタンドアロンバージョンを個別に実行することもできます。

Nektarineのインストールとセットアップ

まだNektarineをインストールしていない場合は、まずNektarアカウントからパッケージをダウンロードし、オンラインのNektarineユーザーガイドに記載されているインストールプロセスを完了してください。

プラグインのインストールとスキャンが完了したら、プラグインのロードとマッピングに進むことができます。

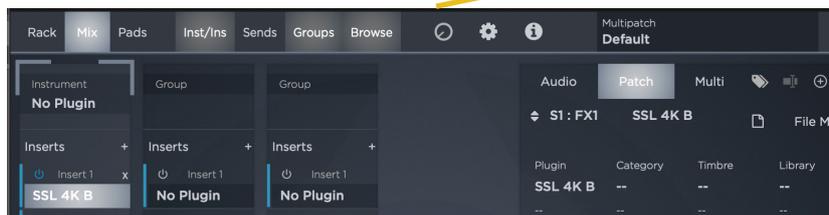
Nektarineでプラグインをロードする

Nektarineが動作している場合、プラグインをロードするにはいくつかのオプションがあります：

- ブラウザを使用してプラグインを選択または検索できます。ダブルクリックしてロードするか、ロードするスロットにドラッグアンドドロップします。
- スロットでプラグインを選択できます。これは、プラグインラックとミックスビューの両方で実行できます。

コントロールのマッピング

Nektarineのインサートスロットにインサートプラグインをロードしたら、インサートスロットをクリックしてプラグインを開き、UIを表示してコントロールのパラメータを確認するオプションを表示します。次に、コントロールページボタンをクリックします。



Panorama CS12は、Nektarineのランモード(「Shift」キーを押しながら「Data/Menu」キーを押す)とコントロールページのマッピング機能を組み合わせて使用できます。コントロールページの詳細については、オンラインユーザーガイドのコントロールマッピングセクションを参照してください。

トラブルシューティング：Panorama CS12 を Nektarine に接続する

スタンドアロンのNektarineアプリを開くか、プラグインバージョンをホストしているトラックを選択すると、CS12とNektarineが自動的に接続されます。接続されない場合は、MacOSの入力モニタリング設定を確認してください。

20Hzから20kHzのEQ周波数など、値の範囲が広いパラメータをコントロールする場合、従来の7ビットコントロール解像度では限界があります。その結果、変化は段階的になり、必要な精度を得るにはマウスを使わざるを得なくなります。

ただし、従来の7ビットコントロール解像度は、標準パラメータを1回の回転でコントロールする場合に最適であり、それ以上の解像度を必要としないプラグインパラメータも多数あります。

ファインレゾリューションの実例

EQ周波数の例を使用して、現在選択されているトラックにLogicのチャンネルEQをロードします。Panorama CS12で、周波数に割り当てられた中央の行のポットの1つを動かします。ポットを使用すると、1回の回転で全範囲をスクロールできます。次に、ポットを反時計回りに回して20kHzから変更します。値は800Hzずつ変化し、プラグインのUIで段階的な変化を非常に明確に確認できます。

- 「Fine(**Q**)」ボタンをオンにすると、ステップがパラメータ最大解像度の100Hzになります。



これでコントロールを動かして周波数を変更するのが、マウスを使うのと同じくらいスムーズになりました。

フェーダーで細かい解像度を使用する

フェーダーは既に10ビットでパラメータをコントロールしており、ほとんどの状況では十分です。ただし、微調整が必要な場合があるため、Panorama CS12ではフェーダーを使用して細かいコントロールを行うオプションも用意されています。

- 「 **Q** 」を押したまま、フェーダーを現在の位置からいずれかの方向に動かします。

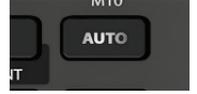
フェーダーのコントロール解像度が上がったため、狭い範囲内でチャンネルの音量を正確に調整しやすくなりました。

- フェーダーから手を放して「 **Q** 」を押すと、フェーダーが新しい位置に移動します。

Panorama CS12では、回転式コントロールやボタン、もちろんモーターフェーダーを使用してオートメーションを記録できます。選択したパラメーターコントロールオプションと組み合わせると、モーターフェーダーは、デフォルトで10ビットの解像度を備えているため、オートメーションに最適です。

オートメーションモード

オートメーションを有効にするには「Auto」ボタンを押します。



ただし、適切なオートメーションモードを選択しても大きな違いが生じる可能性があります。よってここでは、オプションの概要を示します。ほとんどのオプションはLogic Proの一部であるため、ユーザーすでに使い慣れているかもしれませんが、モーターフェーダーのタッチ機能をより有効に活用するために、いくつかのオプションを追加しました。

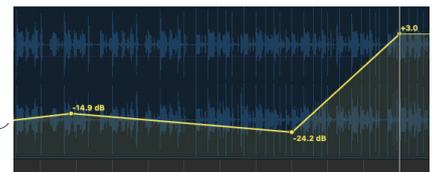
「Auto」を押したまま「DATA/MENU」エンコーダーを動かしてポップリストから選択します。選択内容は現在のトラックにのみ影響するため、プロジェクト全体でさまざまなオートメーションモードを使用できます。



オートメーションモード	説明
OFF	オートメーションはオフの状態です。
READ	既存のオートメーションの再生のみを行います。
TOUCH	コントロールが動かされたときに、既存のオートメーションが再生され、新しいオートメーションがキャプチャされます。コントロールしなければ以前のオートメーションは上書きされません。
LATCH	コントロールが動かされなくなると、以前のオートメーションは新しい LATCH 値で上書きされます。それ以外は TOUCH に似ています。
WRITE	動かされていないパラメータを含む既存のオートメーションデータを上書きします。
TRIM	コントロールで行われた変更を基準にして、既存のオートメーションデータを調整します。
RELATIVE	RELATIVE TRIM は TRIM と同じですが、編集を容易にする相対カーブが追加されています。Panorama CS12 の動作には影響しません。
SINGLE POINT	これは Panorama CS12 のオートメーションモードであり、フェーダーをタッチしたときにタイムラインの任意の場所にオートメーションポイントを挿入できます。リリース時に 2 番目のポイントが追加され、2 つのポイントの間に完全なフェーダーが作成されます。後述する「シングルポイントオートメーション」を参照してください。
AUTO-LATCH	もう一つの Panorama CS12 オートメーションモードは、フェーダーにタッチした時だけオートメーションが有効になるラッチに似た機能です。これにより、オートメーションをオフにするのを忘れても、誤ってオートメーションを記録することがなくなります。
AUTO-TOUCH	TOUCH に似ていますが、AUTO-LATCH と同様、フェーダーがタッチされていないときはオートメーションはキャプチャされません。

シングルポイントオートメーション

シングルポイントオートメーションオプションは、Logic Pro でペンシルを使用してオートメーションポイントを描画するのと同じプロセスです。オートメーションポイントは編集しやすく、どこにでも挿入できスムーズな動きを実現します。



- オートメーションが有効になっていることを確認し、上記のようにシングルポイントを選択します。
- フェーダーをタッチします。オートメーションポイントが現在の再生ヘッド位置に挿入されます。
- オートメーションポイントを設定する値に達するまでフェーダーを動かし、フェーダーを放します。

ズーム

専用のズームエンコーダーで水平方向のズームを調整します。ズームを移動しながら「Shift」キーを押すと、垂直方向のズームを調整できます。

テンポ

「Tempo」エンコーダーには7つのコントロールオプションがあります。

「Shift」キーを押しながら「Tempo」を動かすと、下の表にリストされているオプションをスクロールし、エンコーダーを放して選択します。テンポはデフォルトで選択されていますが、選択内容はLogic Proの環境設定の一部として記憶されます。(注:テンポは、デフォルトを再構築すると復元されます)。

機能	説明	機能	説明
Tempo	1BPM ステップでテンポを調整します。「Fine」を押したままにすると、7BPM ステップ単位で調整できます。	Cycle/Loop	サイクルループをタイムライン上でその長さだけ移動します。「Magnifier」を押したままにすると、Cycle/Loopを1小節単位で移動できます。
Playhead	再生ヘッドをタイムライン上で小節単位で移動します。「Magnifier」を押したままにすると、拍単位で移動できます。	Vertical Zoom	フォーカスされているウィンドウの専用の垂直ズームコントロールです。
Scrub	再生ヘッドを移動してオーディオをスクラブします。	Clip Gain	オーディオクリップゲインをリアルタイムで1dbステップで調整します。
Nudge	現在の選択範囲(リージョン、ノート、またはオーディオ)をナッジします。「Magnifier」を押したままにすると、フレーム単位でナッジします。		

チャンネル/トラックの選択

Panorama CS12からミキサーチャンネルを選択する方法は3つあります。

- 「矢印 <>」ボタンの1つを押して、前または次のチャンネルを選択します。
- 「SHIFT」+「矢印 <>」(ボタンのどちらか)を押して前または次のトラックを選択し、コントロール用に関連付けられたチャンネルを選択します。このオプションは(1)と似ていますが、トラックに直接リンクされているチャンネルに限定されます。この方法では、Aux、出力、マスターチャンネルを選択することはできません。
- Logic Proでミキサーを開きます。次に、「矢印 <>」ボタンの1つを押したまま「DATA/MENU」エンコーダーを動かします。「DATA/MENU」を回すと、トラックリストまたはミキサーチャンネルの下で、コントロールサーフェス選択インジケータが動きます。インジケータが選択したいチャンネルの下に来たら、「矢印 <>」ボタンを放します。



タイムラインのナビゲート

Panorama CS12には、タイムラインをナビゲートしたり、サイクルループやマーカーを管理したりするための複数のオプションがあります。

基本的には「rewind (◀◀)」または「forward (▶▶)」を押して、再生ヘッドを前/次の小節に移動します。ボタンを押し続けると、バー間をより速く移動できます。

「DATA/MENU」エンコーダーを使用してタイムラインをスクロールすることもできます。「◀◀」または「▶▶」を押したまま、「DATA/MENU」エンコーダーを動かします。エンコーダーは、前方または後方にエンコーダーティックごとに再生ヘッドを1小節ずつ移動します。

ループポイントの設定

サイクル/ループロケータを設定するには、まず再生ヘッドをロケータを移動させる位置に移動します。

- 「Shift」+「 /Set L」を押して、左ロケータをその位置に移動します。
- このプロセスを繰り返し、「Shift」+「 /Set R」を押して、右ロケータを移動します。



再生ヘッドを左または右のロケータに移動するには、「 /」ボタンを押します。

ループの移動

サイクル/ループロケータは、次の方法でループの長さだけ移動できます

- 「Shift」+「 /Loop>」を押すと、前方に移動します。
- 「Shift」+「 /<Loop」を押すと、後方に移動します。



「DATA/MENU」エンコーダーを使用すると、ループをより長い距離移動できます。

「 /<Loop」または「 /Loop>」を押したままにすると、エンコーダーティックごとにループを1ループ長だけ前後に移動します。

マーカー

Logic Pro でマーカーを使用することは、サイクルループロケータを設定するもう1つの優れた方法です。マーカーを選択すると、左ロケータは選択したマーカーの位置に、右ロケータは次のマーカーに設定されます。マーカーを使用すると、プロジェクト内の重要なセクションに瞬時にアクセスできるようになり、再生ヘッドを不必要に動かす時間を節約できます。



マーカーボタンが点灯すると、上にあるラベルM1-M10の10個のボタンは点灯しなくなり、マーカーモードになっていることが示されます。

マーカーが存在する場合、これらのボタンのいずれかを押すと、Logic Proでマーカーが選択されます。

マーカーの追加、削除、移動

マーカーの追加、削除、前のマーカーへの移動、次のマーカーへの移動などの追加オプションがあります。

- 「Marker」を押したまま「」を押すと、現在の位置にマーカーが追加されます。

マーカーの実際の位置は、タイムラインヘッダーのLogic Proスナップ設定によって影響を受けることに注意してください。マーカーがタイムラインに表示されると、M1~10ボタンを押してマーカー1~10を直接選択できます。

M10 より多いマーカーの場合：

- 次のマーカーに移動するには、「Marker」+「」を押します。
- 前のマーカーに移動するには、「Marker」+「」を押します。
- マーカーを削除するには、「Marker」+「」を押します。

フットスイッチを背面の1/4インチジャック (17) に接続すると、次のいずれかのオプションをトリガーできるようになります。

- プレイ/ストップ
- プレイ/ストップリターン
- レコードオン/オフ
- タップテンポ
- ループを前方に移動
- ループを後方に移動
- サイクルオン/オフ
- オートオン/オフ



オプションを選択するには、フットスイッチを押して「DATA/MENU」エンコーダーを動かします。選択が完了したらエンコーダーを放します。

2つ目のフットスイッチを接続する

1/4インチジャックはTRSコネクタタイプです。Yスプリッターケーブルを使用すると、2つのフットスイッチを接続して、それぞれがリストされているオプションの1つをコントロールできます。

Yスプリッターケーブルの一方の端には1/4インチTRSコネクタがあり、もう一方の端では2つの1/4インチTSメスジャック(またはフットスイッチに付いているコネクタ)に分岐します。





ボタン	説明	機能
MARKERS	マーカーメニューをアクティブにし、M1～M10 というラベルの付いたボタンをマーカーに割り当てます。マーカーセクションを参照してください。	
PREVIOUS	ボタンを押したまま、「DATA/MENU」を移動して Logic コントロールサーフェスセレクターを前のトラックに移動します。	[Shift]+[◀]で前のミキサーチャンネルを選択します。トラックに関連しないチャンネルを含みます。
NEXT	次のミキサーチャンネルです。ボタンを押したまま、「DATA/MENU」を移動して Logic コントロールサーフェスセレクターを次のトラックに移動します。	[Shift]+[▶] 次のミキサーチャンネルを選択します。トラックに関連しないチャンネルを含みます。
PLUGIN	フォーカスされているプラグインウィンドウを開閉します。「PLUGIN」を押したままスロットボタンを押すと、ホストされているプラグインを開閉します。	[SHIFT]+[🔌]ですべてのプラグインウィンドウを非表示にします。もう一度押すと非表示になります。 [🔌]を押しながらスロットボタンを押すと、ホストされているプラグインを開閉できます。
MIXER	ミキサーウィンドウを開閉します。	[SHIFT]+[⏮]ですべてのプラグインウィンドウを閉じます。元に戻すことはできません。
MAGNIFIER	パラメーターに応じて、最大 10 倍 (または 14 ビット) の Fine- 高解像度コントロールを有効にします。	「🔍」を押したままフェーダーを動かすと、コントロール解像度が 14 ビット上がります。「🔍」を押したまま「DATA/MENU」を動かすと、Logic Pro で曲の位置を微調整できます。
SHIFT	押し続けるとモデファイが有効になります。「SHIFT」はボタンの下に印刷された文字で示されているように機能します。	
GOTO L	左ループロケーターに移動します。	「SHIFT」+「◀◀」でループを戻します。 「◀◀」+「DATA/MENU」でエンコーダーでループを移動します。
GOTO R	右ループロケーターに移動します。	「SHIFT」+「▶▶」でループを前に進めます。 「▶▶」+「DATA/MENU」でエンコーダーでループを移動します。
UNDO	Logic Pro の元に戻すをトリガーします。	「SHIFT+「UNDO」でやり直します。
METRONOME	メトロノームのオン / オフを切り替えます。	「Shift」+「🎵」でメトロノームのカウントインを切り替えます。
AUTO	オートメーションを有効にします。	「AUTO」を押したまま「DATA/MENU」を動かしてオートメーションモードを選択します。詳細についてはオートメーションのセクションを参照してください。
CYCLE/LOOP	サイクル / ループを有効にします。	「Shift」+「🔄」でループ選択を有効にします。
REWIND	巻き戻し	「Shift」+「◀◀」で左サイクルロケーターを設定します。
FORWARD	早送り	「Shift」+「▶▶」で右ループ / サイクルロケーターを設定します。
STOP	停止	もう一度押すと開始に戻ります。「Shift」+「■」でクオンタイズが有効になります。
PLAY	再生	「Shift」+「▶」=再生選択
RECORD	録音	「Shift」+「●」で録音の置き換えが有効になります。

ショートカットのコンビネーション	説明
[SHIFT]+[MUTE]	すべてのミュートをオフにします。
[SHIFT]+[SOLO]	すべてのチャンネルの現在のソロステータスのオン / オフを切り替えます。
[SHIFT]+[ARM]	すべてのトラック / チャンネルをアーム解除します。
[SHIFT]+[?]	フォーカスされているプラグインウィンドウを開く / 閉じます。
[SHIFT]+[SELECT]	フェーダー割り当てを選択したチャンネルとマスターチャンネルに切り替えます。
[SHIFT]+[FADER TOUCH]	チャンネルの音量を0dbに設定します。
[Q]+[FADER]	フェーダーがコントロールするパラメーターを14ビットの細かい解像度で調整します。
[Q]+[MUTE]	ボタンの組み合わせを押したままにすると、コントロールするパラメーターに影響を与えずにフェーダーの位置を変更できます。離すと、フェーダーは設定された位置に移動します。
[SHIFT]+[SLOT BUTTON]	プラグインスロットをバイパスします。
[SHIFT]+[9-16]	すべてのプラグインをバイパスします。
[]+[SLOT BUTTON]	スロットを選択せずにプラグインウィンドウを開く/閉じます。
[SHIFT]+[]	開いているプラグインウィンドウをすべて隠す。繰り返すと非表示になります。
[SHIFT]+[]	開いているプラグインのウィンドウをすべて閉じる。
[]+[CHANNEL]	ソフトウェアインストゥルメントトラックが選択されている場合は、インストゥルメントプラグインウィンドウを開く/閉じます。
[SHIFT]+[SENDS]	すべてのセンドをバイパスします
[SHIFT]+[ZOOM]	垂直ズームを調整します。
[SHIFT]+[TEMPO]	7つのコントロールオプションのいずれかを選択します:再生ヘッド(ジョグ)、スクラブ、ナッジ、サイクル、垂直ズーム、クリップゲイン、テンポ。選択は、再度変更されるまで保存されます。
[SHIFT]+[MARKERS]	現在の場所にマーカーを作成します。現在の場所のマーカーを削除するには、「Shift」を押しながら「Markers」を2回押します。
[MARKERS]+[]	現在の再生ヘッド位置にマーカーを作成します。
[MARKERS]+[]	現在の再生ヘッド位置のマーカーを削除します。
[MARKERS]+[]	次のマーカーに移動します。
[MARKERS]+[]	前のマーカーに移動します。
[SELECT]+[TOUCH FADER]	「Select」がオンになっている場合、このショートカットはフェーダーモーターを有効にします。フェーダーに触れるか、「Select」が無効になっていると、モーターは再びアクティブになります。
[SHIFT]+[AUTO]	現在のトラックのオートメーションを無効にします。再度有効にするには、「Auto」をもう一度押します。

電源とインストールの確認

インストール後にPanorama CS12がLogic Proに接続されない場合は、Logic Proを再度閉じてください。
Panorama CS12ディスプレイの右上隅に、電源とコントロールコアの接続を示す2つのアイコンがあります。

電源

稲妻型の電源アイコンが灰色の場合、Panorama CS12は低電力モードで動作しています。Panorama CS12が低電力モードで動作しているか高電力モードで動作しているかは通信には影響しませんが、モーター付きフェーダーとLEDのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。CS12は、次の条件下では高電力モードで最適に動作します。

- 急速充電をサポートするUSB-Aポートに接続します(通常は稲妻型のシンボルで示されます)。
- USBハブに接続します(電源が入っているのが理想的です)。
- 両端にUSB-Cコネクタが付いたケーブル(付属していません)を使用してUSB-Cポートに接続します。
- 5V 1A ACアダプターを電源ジャックに接続します。(ACアダプターは付属していません。電源ジャックには、中央にプラス極性がある2.1mmバレルコネクタが必要です)。

稲妻型アイコンが緑色のとき、Panorama CS12は高電力モードになっています。

ControlCoreの接続

左側のアイコンが灰色の場合、ControlCoreはPanorama CS12に接続できないことを意味します。解決するには、インストールページの説明に従って、入力モニタリングが有効になっていることを確認してください。

Panorama CS12がパラメータまたは機能を正しくコントロールしない

Logicの「デフォルトの再構築」オプションを使用すると、表示やナビゲーションに関する問題を解決できます。

例:

- インサートスロットボタンを押してもパラメータがディスプレイに表示されない。
- コントロールを動かしてもパラメータ名の値が正しく更新されない。
- ディスプレイフィードバックに間違った情報やLogicのGUIと同期していない情報が表示される。
- Logicの起動時以外にWelcome画面が表示される場合、またはアクティブなトラックを含むプロジェクトが読み込まれた後もWelcome画面がディスプレイに表示されたままになる。

上記のような問題が発生した場合は、次の手順に従ってください。

1. 「Logic Pro」メニューを開きます
2. 「コントロールサーフェス」を選択します
3. 「デフォルトの再構築」を選択します
4. このオプションが表示されない場合は、Logicの設定メニューの「詳細」ページで「完全な機能を有効にする」をオンにする必要があります。

トラブルシューティング

ボタン/コントロールが違う動作をする

コントロールが期待通りに動作しない、または違う機能をコントロールしている場合は、Logic ProのMIDIラン/コントロール割り当て機能を使用したときに、誤って割り当ててしまった可能性があります。次の手順に従ってください。

1. CMD+Lを押して、Logicの「コントローラー割り当て」メニューを表示します。
2. 「エキスパート表示」ボタンをクリックします。
3. (NO ZONE)カテゴリを選択します。
4. 意図的ではないコントロール割り当てが表示された場合、またはCS12のロータリーコントロールに関連しないコントロール割り当てが見つかった場合は、それらを削除します。
5. 問題のあるコントロール割り当てが見つからない場合は、Logicのコントロールサーフェス設定をクリアする必要がある可能性があります。これについては、以下で詳しく説明します。

他の方法がすべて失敗した場合は、com.apple.logic.pro.csファイルをクリアします

誤ったコントロール割り当てが見つからない場合、コントロールを動かしたりボタンを押したりしてからLogicが応答するまでにかかなりの遅延がある場合、またはCS12が非常に異常な動作をする場合(特に新しいコントローラーを接続した後)、Logicのコントロールサーフェス設定をクリアする必要がある可能性があります。これを行うと、Logicはカスタムコントロール割り当てとキーコマンドを忘れてしまうことに注意してください。

1. 開いているアプリケーションをすべて閉じて、Finderウィンドウを開きます。
2. 画面上部の「移動」メニューを開きます。
3. 「移動」メニューを開いた状態で、キーボードのAlt/Optionキーを押したまま、「移動」メニューから「ライブラリ」を選択します。
4. Finderウィンドウで、「環境設定」フォルダを開きます。
5. com.apple.logic.pro.csを見つけてゴミ箱に移動します。
6. Logicを起動します。

Logic Pro 10.7.8および10.7.9で接続できない

Logic 10.7.8または10.7.9を使用していて、Logic Proを起動したときに「自動割り当て」メッセージが表示されてもPanorama CS12がスタートアップページのままである場合は、Logicがまだ実行されている間にCS12をオフにして再度オンにしてください。メッセージが再び表示されたら、「自動割り当て」をクリックします。CS12のディスプレイにWelcome画面が表示され、Logicのコントロールサーフェス設定メニューにPanorama CS12のアイコンが表示されます。

または、CS12の電源をオフにした状態でLogic Proを起動します。プロジェクトの読み込みが完了したら、CS12をオンにします。「自動割り当て」ボタンが表示されたらそれをクリックすると、CS12がコントロールサーフェスとして構成されます。

この問題はLogic 10.7.8および10.7.9のバグに関連しており、Logic Pro 10.8以降で解決されています。

フェーダーのタッチの問題

フェーダーが思い通りにパラメータをコントロールしていない場合は、「Select」がアクティブかどうかを確認してください。ボタンが白く点灯している場合、フェーダーはチャンネルのボリュームをコントロールします。ボタンが青く点灯している場合、フェーダーは最後にクリックしたパラメータをコントロールしています。

モーターフェーダーは、タッチセンサーを使用して、フェーダーがタッチされているかどうかを検出します。フェーダーがタッチを検出しない場合、割り当てられたパラメータの値を更新しません。タッチセンサーは、手/指（スマートフォンのタッチスクリーンの場合など）または導電性のものでタッチした場合にのみタッチを検出できます。指の爪やペンで押ししても、フェーダーは割り当てられたパラメータの値を更新しません。

ただし、フェーダーに直接触れても、フェーダーがタッチを検出しない場合があります。これは、特に寒冷または乾燥している気候で、手が非常に乾燥している場合、特にフェーダーキャップの上端または下端に触れている場合に発生する可能性があります。その場合は、フェーダーキャップの中央に触れるか、キャップを外してみてください。

フェーダーでパラメータを調整できず、パラメータをオートメーションしたりトラックを切り替えたりするときにモーターがフェーダーを動かさない場合は、タッチセンサーが逆に動作している可能性があります。その場合は、次のことを試してください。

- もう一方の手で金属面に触れながらフェーダーを使用してみてください。ラック機器のフロントパネルやデスクトップコンピュータのシャーシに触れてみてください。
- ラップトップを使用している場合は、バッテリー電源で動作し、CS12のみがコンピュータに接続されている状態でフェーダーをテストしてみてください(ラップトップに接続されているケーブルはCS12に接続されているケーブルのみになります)。
- デスクトップコンピュータを使用している場合は、コンピュータの電源を別のコンセントに接続してみてください(できれば他のデバイスが接続されていないコンセントなど)。
- CS12に外部電源アダプターを使用している場合は、そのアダプターなしでフェーダーをテストしてみてください。
- フェーダーキャップを取り外した後でフェーダーをテストします(フェーダーキャップを引っ張るだけです。抵抗はありますが、フェーダーを損傷することなく外れます)。
- 靴を履かずにフェーダーをテストしてみてください(馬鹿げているように聞こえるかもしれませんが、まれに役に立つことがあります)。
- 可能であれば、コンピュータとCS12を別の部屋に設置した場合に問題が発生するかどうかを確認します。